

原口忠次郎著

過密都市への挑戦

—ある大都市の記録—

過密、スプロール、ドーナツ現象、交通混雑、公害などと現在の大都市がかかえる悩みは、まことに深刻である。これは近年の急速な都市への人口集中と産業・経済の発展に対し、その基盤となるもろもろの社会資本の整備が追いつかぬことにある。そのため、将来の都市像として、社会資本の整備を中心としたさまざまなプランが提案され、いろいろな論議を呼んでいる。

しかしながら、提案されたプランからどれを何故に選び、それをいかにして具体的に実行するかに関しては、余り議論がない。いかに優れたプランがあっても、その都市その地区に最も適したものと判断し、さまざまな制約を乗り越えて現実のものにしようとするたくましい実行力がなければ、それは単なる青写真か絵に書いた餅にしかすぎなくなる。

本書は過密都市への挑戦記である。そしてよりよい都

市づくりに向けて芽ばえたアイデアをいかに実現したかに関する体験記でもある。本書にみなぎっているのは古い制度を切り開く新しい意識とたくましい行動力である。それは、埋立による海上都市から市街地改造、交通施設の建設、防災・公害・交通安全対策、生活圏改善の諸施策に至るまで広くおよんでおり、現代都市の諸問題に取り組んだ著者の生きた記録でもある。

本書の随所に、数少ない土木屋市長として著者がもつ豊富な体験に裏づけされた技術的判断が現われる。また都市という大企業体の経営に当る意思決定者として、現代の都市問題を解決するためのさまざまな問題点や矛盾を指摘し、解決のための方向を明らかにしてくれる。これは著者のまさに実戦的都市論であり、過去に余り例をみない意思決定者の発言でもある。

文体は軽く、気に通読できるが、とにかく誰が読んで面白いか本である。机上の都市論争に追われる人は新しい物の見方を教わるであろうし、都市の矛盾に反ばつを覚える人は、盛られた創意と実行力に拍手を送るであろうし、若い技術者は未来の都市づくりに対する土木屋としての期待と心の支えを得るであろう。ぜひ一読をすすめたい。

[く]

日本経済新聞社刊、新書版・184ページ、定価 280 円

魚住種治著

土木基礎工法

モダンエンジニアリングライブラリー A 601 として刊行された本書は、高度な理論究明をさけて、広く工事第一種の技術者向けに書かれたものである。また、執筆には筆者のほかにもパシフィックコンサルタンツ(株)の技術陣の多くの者が参画しており、全5編の内容は簡明である。目次は、1. 基礎の概説、2. くい基礎、3. ニューマチックケーソン、4. 井筒基礎工法、5. 地盤改良からなっている。

地人書館刊、B 6 判・339 ページ、定価 700 円

無音無振動基礎工法研究会編

無音無振動基礎工法

本書は、日本建築学会近畿支部で、講習会用として発行された同名のテキストに、多少の修正加筆を行なったもので、

同支部の基礎構造研究委員会ならびに無音振動基礎工法特別研究委員会において調査研究した成果である。地中連続壁を含め、騒音と振動の性質を説明し、これの社会的影響に言及し、これを防止する工法の一般的解説をしている。本書の後半には現在各社において技術導入、または技術開発した工法を掲載している。内容(目次)は、第I章 基礎工事と騒音振動問題、第II章 無音無振動基礎工法の現状、第III章 無音無振動基礎工法の問題点と対策、第IV章 無音無振動基礎工法各説、付録 振動および騒音の実測例からなっている。

鹿島出版会刊、B 5 判・220 ページ、定価 2 200 円

吉田 巖著

基礎工法

ここ 20 年ばかりの間の基礎工法の発展はすばらしく、また反面新旧さまざまな工法が存在することでも著明である。この時点で、初めて基礎工を学ばれんとする方への入門書として書かれたのが本

書である。本冊は「土木技術」誌に連載された講座に手を加えたもので、巻末に参考書籍名が明記されている。目次は、1. 序説、2. 既製グイ打込工法、3. 既製グイのジェット工法と圧入工法、4. 貫入方式による場所打ちグイ、5. ベノトグイ、6. カルウェルドグイ工法、7. リバースサーキュレーショングイ工法、8. 深礎工法、9. 特殊工法、10. オープンケーソン工法、11. 空気ケーソン工法(白石式)、12. 空気ケーソン工法(大豊式)の 12 編からなっている。

理工図書刊、A 5 判・197 ページ 1 000 円

東京都下水道研究会編

実用流量表

本書は、水に関する計画・設計・管理に用いる円形管と矩形きょを対象に、 Manning, Kutter, Hazen-Williams 等の公式に基づき、粗度係数や流速係数を変えて、管径と勾配の相違による流量と流速の値を求め、数表としたものである。印刷に際しては、電算機で打ち出

されたそのものをオフセット印刷として誤植を防ぐとともに、限られた頁内に普段最も多く使われると考えられるものを極力取り入れたとしている。内容は、1. 円形管流量表、2. 矩形きょ流量表、3. 水理特性曲線の3編からなっている。

山海堂刊、A5判・392ページ、1200円

渡辺昇著
**連続げた影響線の
縦距表と面積表**

最近、橋梁設計の分野において、諸々の事由から上路の連続桁形式の採用されるケースがふえてきている。とはいえ、本形式は不静定構造であるため相当めんどろな力学計算が要求される。ここに着目して、本書は以下に記す諸件について電算機により解を得ている。第1章 単径間桁影響線の縦距表と面積表、第2章 2径間連続桁影響線の縦距表と面積表、第3章 3径間連続桁影響線の縦距表と面積表、第4章 4径間連続桁影響線の

縦距表と面積表、第5章 5径間連続桁影響線の縦距表と面積表、第6章 無限数径間連続桁影響線の縦距表と面積表、第7章 解説、の各編からなっている。技報堂刊、B5判・428ページ、定価3000円

武藤清監修
寺崎恒正・大森信次・遠山幸三共訳
高層骨組の塑性設計

アメリカのLehigh大学にあるFritz Eng. Laboratoryはそのすぐれた設備と陣容をもって高名であり、鋼構造学の雄であるとされている。ここで行なわれる夏季セミナーのテキストPLASTIC DESIGN OF MULTI-STORY FRAMESを訳出したものが本書であり、適切な訳者を得て出版されたものである。内容(目次)は、第1章 一般的設計問題(G.C. Driscoll)、第2章 塑性設計の基礎概念(L.S. Beedle)、第3章 はり(T.V. Galambos)、第4章 柱(L.W. Lu)、第5章 接合部の設計(J.W.

Fisher)、第6章 予備設計(G.C. Driscoll)、第7章 プレースつき骨組の設計…プレースについて(T.V. Galambos) 第8章 プレースつき骨組の設計…はりについて(A. Ostapenko)、第9章 柱たわみ曲線…CDC(T.V. Galambos)、第10章 水平変位しない分解架構および拘束性(T.V. Galambos)、第11章 プレースつき骨組の設計…柱について(L.W. Lu)、第12章 プレースつき骨組の設計例(L.W. Lu)、第13章 プレースなし骨組の挙動(A. Ostapenko)、第14章 プレースなし骨組の予備設計(G.C. Driscoll)、第15章 骨組座屈(L.W. Lu)、第16章 水平変位を考慮したプレースなし骨組の近似設計(G.C. Driscoll)、第17章 水平変位する拘束柱(T.V. Galambos)、第18章 プレースなし骨組の柱の設計(L.W. Lu)、第19章 プレースなし骨組の設計例(J.H. Daniels)、第20章 記号説明、第21章 用語の解説等からなっている。

鹿島出版会刊、B5判・411ページ、定価6500円

連載講座開設のご案内

現在連載中の「郷土の土木」が7, 8号の関東支部編をもって完了致しますので、引き続き下記講座を連載致します。押し寄せる技術革新の波を受け止めるため企画

しましたもので、今日の技術会話の支柱ともいえる新しい数学の入門講座を意図しております(標題等未定)。登録番号、登録順序、執筆者等に一部変更があることも考えられますが、ご期待下さいませようご案内申し上げます。 会誌編集委員会

登載 順位	標 題	執 筆 者	登載番号	主 内 容
1	確率・統計 (A)	吉川和広 (京都大学教授)	54-10	・計画数学 (たとえば、トラフィック等) ・水資源開発 ・工程管理 ・需要予測
			54-11	
2	確率・統計 (B)	日野幹雄 (東京工業大学助教授)	54-12	<主に水関係> ・ダムコントロール ・モンテカルロ法 ・波高予測 ・風の閾値 ・拡散
			55-1	
3	不規則な現象の解析	伊藤学 (東京大学助教授)	55-2	・地震 ・風 ・車両走行 ・その他、主に構造物関係を扱う
			55-3	
4	グラフの理論	毛利正光 (名古屋大学教授)	55-4	・グラフのつくり方 ・土木分野における応用例
			55-5	
5	マトリックス代数	小松定夫 (大阪大学教授)	55-6	・マトリックスとは何か ・基本概念 ・トポロジー
			55-7	